

「農匠ナビ 1000 シンポジウム 2017in 茨城」開催要領

シンポジウムテーマ：世界の米需給を見据えたわが国の稲作経営の発展方向

1 目的

平成 25 年 6 月に閣議決定された「日本再興戦略」では、今後 10 年間で全農地面積の 8 割を担い手に集約し、米の生産コストを現状の全国平均約 1 万 6 千円/60kg から 4 割削減することが目標として設定された。こうした目標を実現するため、生産コスト低減に向けた具体的な取組として、大規模経営に適した省力栽培技術や品種の導入、ICT を活用した作業管理、及び肥料、農薬等生産資材費の低減に向けた様々な取り組みが行われている。

農匠ナビ 1000 コンソーシアムでは、先進的大規模稲作農業生産法人 4 社、大学、農機メーカー、IT 企業、国公立試験研究機関が参画して、平成 26～27 年度に大規模実証研究プロジェクト（農匠ナビ 1000※）を実施した。その研究成果を取りまとめて、農匠稲作経営技術パッケージ（水田センサ、IT 農機、ドローン、流込施肥、高密度育苗、直播等を組み合わせた技術体系）として提示すると共に、その成果を取りまとめた書籍『TPP 時代の稲作経営革新とスマート農業—営農技術パッケージと ICT 活用—』（養賢堂、2016 年）の刊行も行っている。

その後、平成 28 年からは、全国の多様な地域・稲作経営において農匠ナビ 1000 の取組みを拡大し、生産コスト低減・収量向上・省力化の有効性・効果を実証する課題に取り組んでいる。新たな農匠ナビ 1000 プロジェクトでは、導入可能な作付体系や栽培技術が、地域や経営規模によって異なることから、協力機関として参画頂いている全国農業協同組合連合会と連携協力して、地域特性や経営属性を考慮しながら、農匠稲作経営技術パッケージの全国的な普及を目指している。

本シンポジウムでは、世界の米需給の動向と展望、農匠ナビ 1000 プロジェクトの全体像を紹介すると共に、農匠稲作経営技術パッケージの改良普及に向けた大規模稲作経営および全国農業協同組合連合会の取組みについて、広く米需給や稲作経営に関心を持っている市民の方々、農業者、農業協同組合、普及・行政・試験研究機関、農業関連企業等に紹介する。

※旧・農匠ナビ 1000 研究コンソーシアム（研究期間：H26～H27 年度）

代表機関：(国)九州大学（研究代表者：九州大学大学院農学研究院教授 南石晃明）、

共同研究機関：(有)フクハラファーム、(有)横田農場、(株)ぶった農産、(株)AGL、ヤンマー(株)、ソリマチ(株)、
滋賀県農業技術振興センター、石川県農林総合研究センター、茨城県農業総合センター、
(国)東京農工大学、(研)農研機構(中央農研、九州沖縄農研)

2 主催 農匠ナビ 1000（次世代大規模稲作経営革新研究会、研究期間：H28～H30 年度）

代表機関：(国)九州大学（研究代表者：九州大学大学院農学研究院教授 南石晃明）、

共同研究機関：茨城県(農業総合センター農業研究所、県南農林事務所、県西農林事務所)、

福岡県農林業総合試験場、農匠ナビ(株)、(国)東京農工大学、(研)農研機構農業技術革新工学研究センター

共催 全国農業協同組合連合会

後援：公益社団法人日本農業法人協会、全国稲作経営者会議、茨城県稲作経営者会議、茨城県農業法人協会、茨城県認定農業者連絡協議会、農業情報学会情報利用・普及部会、作物学会 関東支部

農匠ナビ 1000 プロジェクトは、農林水産省予算により国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターが実施する「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)」の一環である。
公式 Web サイト（「農匠ナビ」で検索）：<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/keiei/NoshoNavi/NoshoNavi1000/>

3 日時 平成 29 年 8 月 4 日 (金) 13 時～17 時 (シンポジウム会場開場：12 時 30 分～)

4 場所

つくばカピオ ホール (茨城県つくば市竹園 1-10-1)

TXつくばエクスプレス「つくば駅」下車 A3 出口より徒歩 10 分

アクセス：<http://www.tcf.or.jp/capio/access/>

※ つくばカピオには専用駐車場はございません。自家用車の場合は、周辺の有料駐車場をご利用下さい。

(一財) つくば都市交通センター TEL：029-855-7211 (代)

(南2、南3、南4：最初の1時間まで220円・以降30分毎に110円、1日券1,050円)

5 定員 200名【先着順とし、定員に達し次第、締め切ります】

6 シンポジウムの演題・スケジュール (予定)

シンポジウムテーマ：世界の米需給を見据えたわが国の稲作経営の発展方向

開会挨拶 (13時00分～13時10分)

世界のジャポニカ米需給の動向と展望 (13時10分～13時50分)

九州大学大学院農学研究院教授 伊東 正一

農匠ナビ1000プロジェクトの研究目的と主要成果 (13時50分～14時20分)

九州大学大学院農学研究院教授 南石 晃明

大規模稲作経営の現状と研究取り組み事例 (14時20分～14時50分)

(有)フクハラファーム 代表取締役 福原 悠平

(休憩 14時50分～15時00分)

茨城県における省力低コスト高収量生産技術確立の取り組みと成果 (15時00分～15時30分)

茨城県農業総合センター農業研究所 所長 渡邊 健

稲作経営改善に向けた全農の取り組み (15時30分～16時00分)

全国農業協同組合連合会営農販売企画部 TAC 課 課長 宗 和弘

総合質疑 (16時00分～16時40分)

閉会挨拶 (16時40分～16時45分)

※講演時間には簡単な質問や交代の時間を含む。

7 申込み方法 平成29年7月14日(金)までに、別紙申込書にてファックスまたはEメールでシンポジウム事務局へお申し込みください。参加費無料です。

8 シンポジウム事務局 (別添専用申込書による参加申込み先)

茨城県農業総合センター農業研究所【担当】森、清水、田中、横須賀

電話番号：029-239-7212

ファックス：029-239-7306

Eメール ta.mori@pref.ibaraki.lg.jp